

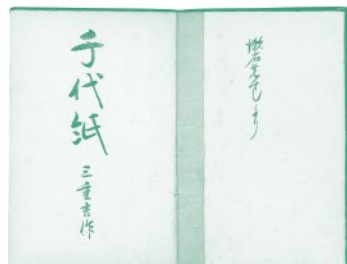


瀬戸内圏の文学者が描いた
夏目漱石

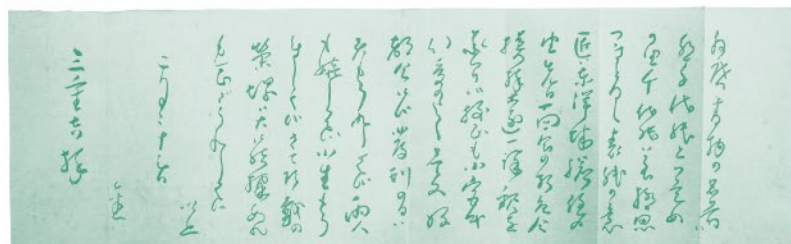


福山市出身の福原麟太郎は、英文学者としての視点から漱石について多くの随筆を発表し、それらをまとめた『夏目漱石』を上梓しています。ミステリー文学の島田荘司は、『漱石と倫敦ミイラ殺人事件』で、留学中の漱石がシャーロック・ホームズと難事件を解決するという小説を発表しています。「漱石の作品に魅力を感じてゐた」という井伏鱒二にも、漱石にふれたいくつもの文章があります。また、漱石門下生の鈴木三重吉(広島市出身)、内田百閒(岡山市出身)も漱石に関して多くの言及をしています。

今回の展示は、秋の特別企画展「開館20周年記念 夏目漱石一漱石山房の日々」のプレ企画展として、これらの文学者が描いた漱石像について、展示・紹介をします。



鈴木三重吉
『千代紙』
俳書堂 1907年4月
左から、表紙、見返し、付録(師・夏目漱石からの手紙の印刷)。漱石に認められた第一作「千鳥」を所収した創作物集。



内田百閒
『吾輩は猫である』
新潮社 1950年4月
右:函 左:表紙
漱石の「吾輩は猫である」が終わったところから始まる物語。水壺から這いあがった猫は五沙彌先生の家に落ち着く。



福原麟太郎
『夏目漱石』
荒竹出版 1973年9月
同じ英文学者であった福原が折りにふれて漱石について記した文章をまとめたもの。

島田荘司
『漱石と倫敦ミイラ殺人事件』
集英社 1984年9月
英国留学中の漱石が、シャーロック・ホームズと事件を解決する本格ミステリー。ラストに出て来る子猫は「夏目」と名付けられる。

井伏鱒二
『文士の風貌』
福武書店 1991年4月
漱石の墓の改葬に居合わせたときの思い出をつづった文章「五十年前のこと」が収録されている。



FUKUYAMA MUSEUM OF LITERATURE
ふくやま文学館

〒720-0061 広島県福山市丸之内一丁目9番9号
TEL. (084) 932-7010
FAX. (084) 932-7020
http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/bungakukan/